**場所・面積**　長崎県対馬市、3.34 ha

## 管理目的

ツシマヤマネコやニホンミツバチをシンボルとして、多様な生物の生息環境である里山保全に貢献すること。また、ツシマモリビト（対馬の森を守る人）の研修や活動の拠点として整備し、ツシマモリビトを増やしていく拠点の一つとする。当サイトは、ツシマモリビトが森林の管理にとどまらず、林産物の収集（資源の発掘）、レクリエーションや環境教育の場として持続可能な利用を行い、森の価値を“見える化”していくモデル林である。



## サイト概要

壱岐対馬国定公園第2種特別地域に指定された社有林。ヤマネコやテンを頂点とする対馬の典型的な二次的自然環境（里山林）の生態系があり、主な植生は常緑広葉樹と一部、落葉広葉樹、針葉樹等がある。その他、タケ類、ヤマザクラ、モチツツジ、アカメガシワ、ウルシ類、ヒサカキなどが自生している。明るい林内を創出するために、広葉樹・針葉樹は間伐を行い、そのための作業道も設置した。また、サイト内には、小規模皆伐を行った区域があり、防鹿柵を設置して、天然更新を行っている。その一部は苗畑場として活用している。今後関係者と管理保全計画を作り、保全・管理・モニタリングを継続的に実施していく。

## 土地利用の変遷

対馬では山の傾斜地を切り開き、段々畑を作り、焼畑を行ってきた。戦後の拡大造林の際に、段々畑にスギ・ヒノキを植えて、人工林を育てた。尾根沿いや斜面には、ツバキも多く植えられている。サイトの平地部は2021年度冬に伐採し、苗畑として活用することとした。防鹿柵を設置して、天然更新による植生回復を行っている。サイト内の針葉樹・広葉樹は間伐を行い、多様な樹木や草本類が育つように環境を整備している。

## サイト周辺の環境

対馬の中央部の西側に伸びる半島にある。リアス海岸地形である浅茅湾に面しており、壱岐対馬国定公園 第2種特別地域に指定された地域である。広葉樹やスギの人工林からなる山野が広がる。サイトの林から沢・湿地・河口・海へと繋がっており、小さな流域となっている。

## アピールポイント

ニホンミツバチの蜜源を増やしていくとともに、ツシマヤマネコの餌となるネズミを増やすためのゾーニングや下層植生の回復等の管理計画の策定を関係者と行う。管理計画をもとに、森林整備を継続的に行うとともに、森づくりや獣害鳥獣対策の担い手（ツシマモリビト）の育成・交流の場、研究を目的とした演習林、モニタリングサイトとしての機能も有するようにしていく。多様な研究者を呼び込み、植生の変化や動植物の多様性の変遷などをモニタリングしていく場所にしていきたい。

**生物多様性の価値**

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値

**【場の概況】**
対馬の典型的な二次的自然環境（里山林）の生態系がある。

**【主な植生】**
主な植生は常緑広葉樹（低木→ツバキ、高木→タブノキ）と一部、落葉広葉樹（コナラ・ノグルミ・アベマキ）、人工林・針葉樹（ヒノキ林）がある。その他タケ類(ヤダケ？)、ヤマザクラ、モチツツジ、アカメガシワ、ウルシ(詳細未同定)、ヒサカキなどがパッチ状に自生している。
サイトの林から沢・湿地・河口・海へと繋がっており、連続的で小さな流域の一角を担っている。

**【確認された主な動植物】**
国の天然記念物であり、環境省レッドリスト2020絶滅危惧IA類 (CR)に指定されているツシマヤマネコ（*Prionailurus bengalensis euptilura*）の生息域内であると考えられる。当サイトでも糞を1個確認した（22/4/10）。また、同地域にて、獣害対策のくくり罠での錯誤捕獲でツシマヤマネコが捕獲されている（豊玉町仁位、22/2/2　申請地区まで10km以内）。ツシマヤマネコの行動圏は雌で1キロメートル～2キロメートルの範囲で生活し、定住性が強く、冬季は、雄は雌の7-8倍拡大するとされている（環境省,ウェブサイトより）。糞の存在や行動圏のサイズを考えると、ヤマネコが当サイトを利用している可能性は十分にある。また、同じく国の天然記念物であるツシマテン（*Martes melampus tsuensis*, 同レッドリスト　準絶滅危惧（NT））の糞は2022年10月の現地踏査の際に多く確認された。長崎県の天然記念物に指定されていた対馬固有亜種のツシマジカ（*Cervus nippon pulchellus*）は、現在個体数が増えすぎて、個体数管理のための捕獲・駆除対象となっている。



写真番号：1　　写真の撮影年月：2022年10月21日
写真の説明：常緑広葉樹が優先する林内



写真番号：2　　写真の撮影年月：2022年4月10日
写真の説明：ツシマヤマネコ の糞

## サイトの管理計画・モニタリング計画

| 管理計画の内容 | モニタリング計画の内容 |
| --- | --- |
| **【管理計画の内容】**<br><br>• 明るい林内を創出するために、広葉樹・針葉樹は間伐を行い、そのための作業道も設置した。また、サイト内には、小規模皆伐を行った区域があり、防鹿柵を設置して、天然更新を行っている。その一部は苗畑場として活用している。伐採は柵の設置は2021年度に行なっており、植樹した苗以外の植物では、在来種：キツネノマゴ、ヨモギ、チカラシバ、ヤブガラシ、オヘビイチゴ、シダ類、イネ科類、アキニレ、カラスザンショウ、外来種：ヨウシュヤマゴボウ、コセンダングサ、ダンドボロギク、ムラサキツユクサ等が確認された。防鹿柵外は、下層植生がないことから、シカの捕獲を行い、植生回復の状況を定期的に確認していく。捕獲は、捕獲隊によるくくり罠と多頭捕獲を検討している。<br>• シカの食害により、下層植生がないため、防鹿柵の設置箇所の拡大やシカの捕獲対策の継続的な実施も行う予定である。また、ツシマヤマネコの餌となるネズミ類の好適な環境を創出すべく、落葉広葉樹の割合を増やしていく（落ち葉を増やす）ための森林管理計画を作っていけないか検討中である。<br>• ニホンミツバチの蜜源となる樹種を植え、多様な樹木が存在する里山林を作って行き、将来的には蜂蜜の採集も行ったり、多様なステークホルダーが森林資源を活用することで、関係者で連携して森林の管理を行う体制を整えていく。 | **【モニタリング対象】**<br>哺乳類、植生<br><br>**【モニタリング場所】**<br>モデル林全体（特に、作業道近辺及び苗畑<br><br>**【モニタリング手法】**<br>哺乳類のルートセンサス及び植生の状況の確認（定点からの撮影）を行う。北九州博物館の研究者らと連携して、ネズミ類の個体数調査も行いたい 。<br><br>**【実施時期及び頻度】**<br><br>年に4回程度<br><br>**【 実　施　体　制 】**<br>対馬もりびと協同組合のコーディネートにより、各種研究者や大学生によるモニタリングを行う体制を整えて行きたい。 |